

苦難乗り越え発展を

70周年 立コロナ下での節目に誓う



創立70周年の式辞を述べる佐藤会頭（プラザ杉の子）

昨年8月で創立70周年を迎えた大館商工会議所（佐藤義寛会頭）の記念式典が27日、大館市のプラザ杉の子で行われた。新型コロナウイルス感染症が猛威をふるう中で、の節目となり、経済界や商工事業者ら約160人が未曾有の苦難を乗り越え、一層発展することを誓い合った。

（3面に会頭式辞要旨）

1951年8月に創立。同年4月に市制施行した大館市の経済を長年けん引し、中小事業者のサポートに力を尽くしてきた。大館能代空港や日本海沿岸東北自動車道の早期建設実現に向け、要望・署名活動を行うなど県北一円の発展にも貢献。会員数は創立当時の492から大きく増加し現在は1541を数える。

当初は式典と祝賀会を計画したが、県内でコロナ感染が急拡大したことを受け、会食を伴う祝賀会を中止。出席者数を制限するなど感染拡大防止対策を講じ、式典だけとした。

佐藤会頭は式辞で、金融危機や東日本大震災など困難を乗り越えてきた歩みに言及。「今後は深刻な少子高齢化と加速する人口減少という高いハードルをクリアし、若い人から老いた人まですべての市民が生き生きと暮らせるまちづくりに向け、行政や関係機関と連携しながら地域に根ざした活動を展開していくと決意した。北東北の中心都市として発展するためにも、一致団結し陰に汗を流すことを心新たにしたい」などと述べた。

功労者計18人を表彰した。記念事業として現金100万円を市に寄付し、佐藤会頭が福原淳嗣市長に目録を手渡した。「市民に愛される外構モニュメント（記念碑）設置費用の一部に役立ててもらおう」という。

来賓に猿田和三・副知事や福原市長らが出席し祝辞をした。祝い酒樽の鏡開きでは元会頭や各界の代表者らが顔をそろえ、節目を祝った。

被表彰者は次の通り。
▽特別功労者 中田直文（大館製作所・前会頭）、竹村雅行（大館ヤクルト販売・元副会頭）、丸山満夫（丸山建設・元副会頭）、巽弘（巽工業所・常議員、参与）、田中寿一

（田中建築設計事務所・議員）、三ツ倉和雄（大館工芸社・常議員、参与）、畠沢邦寿（前専務理事）
▽役員・参与・議員勤続功労者（20年以上30年未満） 鈴木泚士（花岡土建）、藤嶋鐵男（藤嶋鉄工）、佐々木公司（佐々木こうじ店）、石川博司（北秋倶楽部）、宮崎良哉（ミネ美容ルーム）、明石久和（天和産業）、千葉倉男（千葉自動車）、佐々木聡（カネシヨウサキ）

▽職員勤続功労者（30年以上） 齋藤研太（34年）、佐藤美和子（33年）、島内幸夫（32年）